

2018年3月1日

## 日本の貨幣・通貨の歴史を振り返る —通時的・共時的な視点から見た試行錯誤の歴史—

拓殖大学 政経学部 教授  
IIMA 客員研究員 松井謙一郎

筆者の大学でのゼミナールの演題は「グローバル経済を立体的・学際的にとらえる」である。経済学以外の経営・歴史・地理など他分野の知見を積極的に取り入れながら、経済の長期的な動態性（ダイナミズム）や経済発展の問題などを分析することが基本的な問題意識となっている。

昨年末に、校外学習の一環として日本銀行の貨幣博物館と東京証券取引所をゼミの学生と訪問した。それらの見学内容やゼミでの日頃の学びなどを踏まえて、通時的・共時的な視点から日本の貨幣・通貨の歴史についての筆者の理解をエッセイ風に綴ってみたい。

通貨の歴史的変遷とその過程における変化を考えるのが、通時的な視点である。その中でも、国家の統治機構の一環としての通貨制度の構築の模索・試行錯誤、通貨の概念の変遷・進化が通時的分析での重要なテーマである。

共時的な視点とは、日本が同時代の対外的な関係の中での通貨制度の模索と制度形成について考えるものである。特に重要なテーマは、「中世までの東アジア世界での中国からの外圧」や「近世以降の世界の一体化の中での欧米諸国からの外圧」である。

日本銀行の貨幣博物館では、日本の貨幣・通貨の歴史が古代から時代別に展示されている。近代までの日本の貨幣・通貨制度の変遷についての筆者の見方は以下の通りである（筆者個人の見解であり、貨幣博物館の公式な展示説明ではないことを断っておく）。

### <古代> 外圧下で整えられた律令国家体制と貨幣鑄造・流通の模索

日本での貨幣鑄造は、富本銭・和同開珎などが初期の事例として知られているが、これは律令国家体制整備の一環と位置付けられる。7世紀を通じての飛鳥の朝廷の課題は、当時の隋・唐帝国の成立によって東アジア世界周辺諸国への圧力が増大する中で、自立した国家体制を整えることであった。日本の本格的な国家貨幣誕生において、外圧が重要な要因となっていたことを改めて思い起こす必要がある。

## ＜中世＞ 武家社会への転換の中での輸入貨幣の浸透

律令体制の一環として貨幣鑄造が始まったが、その後平安時代までに発行された本朝十二銭などは利用が進まなかったとされる。当時は朝廷が所在する近畿地方を中心とする地域では貨幣が使われたが、東国地域では物々交換が主であったことなどが要因として指摘されている。「朝廷を中心とする西国と、武家を中心とする東国の分立」としばしば表現されるように中世は日本の東西で政治・経済の状況がかなり異なっていた。

武家社会への移行期の政治的混乱に加えて、自前での貨幣鑄造が割にあわないため、中世では中国からの輸入銭の利用が多くなったとされる。海外の貨幣の利用が自国の貨幣利用と比して大きかったことは、現在の途上国のドル化の現象に類似している。

## ＜近世＞ 国内政治・対外関係の安定と自前の貨幣制度の構築の試み

江戸幕府の成立と政治の安定の中で、経済も発展を遂げた。金銀銭の三貨を中心とする貨幣制度が整備されたが、この背景には当時の日本で鉱物資源が豊富に採掘されたことがある。日本で採掘された銀（石見銀山が有名）は国際的にも幅広く流通、中国にも大量に流入して一条鞭法・地丁銀のように明・清の銀の納税の制度化の要因となったことが、広く知られている。度重なる貨幣の改鑄や各藩による藩札の発行など多くの試行錯誤があったものの、総合的に見れば、江戸時代は明治時代の日本の急速な近代化の土台形成、経済面での中国からの自立の時期と位置付けられることが多い。

## ＜近代＞ 西欧の外圧下での近代化と自立した通貨制度の模索

明治時代以降に日本の近代化は本格化するが、その中で西欧諸国に習った通貨制度の構築が急がれていく。外圧の中で銀行制度整備や中央銀行創設が模索されたが、紙幣の大量生産の基礎となる製紙産業や印刷技術の発展なども通貨制度構築上の重要な要素である。東京の王子地区にある施設（紙の博物館・渋沢史料館・お札と切手の博物館）を校外学習の一環で過去にゼミ生と訪問した際にこの点を改めて痛感した。

現代では東京証券取引所が象徴するような大量取引の機械化に加えて、近年のフィンテックの普及で通貨の概念が更に変わりつつある。共時的に見れば、グローバル化の加速の下で標準化を求める外圧が今後も増大していくであろう。通時的・共時的視点から現代の通貨の将来・制度の在り方を考察するのが、筆者の今後の取り組み課題である。

以上

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2018 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>